

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |
|---------|-------------------|
| 事業所番号   | 3890500246        |
| 法人名     | 有限会社ほほえみ          |
| 事業所名    | グループホーム微笑の家なかむら   |
| 所在地     | 愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号 |
| 自己評価作成日 | 平成27年5月20日        |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地   | 松山市持田町三丁目8番15号    |
| 訪問調査日 | 平成27年6月24日        |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の生活スタイルを尊重して、その人らしさが発揮できるようにプランを立て、毎日買い物に出かけたり散歩に行ったりする事で精神面の安定も図れており、皆様穏やかに過ごすことができている。利用者の生活歴を大切に、職員と一緒に食事の支度などをする事により、不安な行動もなく穏やかな生活が送れている。  
本人の希望で自宅の様子を見に帰ったり、家族との絆を深めるために、墓参や家の行事ごとに参加できるように積極的に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のスナップ写真入りの「日常生活報告書」を記入して、毎月家族等に送っている。管理者が独自に考えたもので、利用者の健康状態や生活状況を知らせる内容となっている。管理者は、「家族は事業所から電話が掛かると、何もなくてもドキッとします。私もそうでした。」と述べ、自らの体験を踏まえ、良い事だけでなく心配な事柄も家族等と共有し、一緒に利用者を支援している。定期的に送付されているので、家族等が面会に訪れると、職員と積極的に話し合うことができている。また、管理者は、「介護者がしんどいことは、利用者もしんどい。」と、力任せの介護は利用者にとっても好ましくないと考え、職員の負担軽減にも心を砕いている。また、訪問看護師や協力医の定期的な訪問があり、緊急時体制も整えられているため、安心して医療にかかることができている。家族等の要望に応じて、看取りにも丁寧に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                       | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家なかむら

(ユニット名) ちとせ

記入者(管理者)

氏名 田坂 慶子

評価完了日 平成 27 年 5 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

| 自己評価              | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)  |
|-------------------|------|--|--|--|
| <b>I.理念に基づく運営</b> |      |  |  |  |
| 1                 | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | <p>(自己評価)<br/>施設の目に付く場所に「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指します」との理念を掲示し、一人ひとりの職員が理念に沿ってケアを実施できるように心がけている。</p> <p>(外部評価)<br/>代表者と共に考え作成した理念の「その人らしさを大切にする」には、人権に対する配慮が、「温もりのある支援と介護」には、幸福追求の意味がこめられている。管理者は、これを堅苦しく捉えず、さり気ない気配りにその人を思う気持ちを込めて実践につなげようとしている。その姿勢には、「理念の下で」ではなく「理念と共に」働くという信念を感じることができる。職員も管理者から刺激を受けながら、日々理念を念頭において実践に努めている。</p> |  |
| 2                 | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | <p>(自己評価)<br/>地域の店に買い物に行ったり散歩などで出会った人と挨拶をしたり話をしたりしている。また、小学校や地域祭での太鼓台の訪問を受けるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)<br/>事業所は閑静な住宅街にあり、やや大きめの建物だが平屋であることで街並みに溶け込んでいる。開設以来、地域のお祭りや催し物に積極的に参加し、住民との交流は回数を重ねている。小学校の通学路が近くにあり、利用者は小学生と出会うと声を掛けている。事業所は、近隣の防災拠点として活用するという意向を表明し、地域に頼られる施設となっている。地域に貢献したいという事業所の考えが徐々に住民に認められている。</p>           | 開設から5年目に入っているので、地域との関係は、「交流」から「付き合い」に深めていくことが望まれる。ただ、事業所はあくまでも福祉施設であり住宅ではない。したがって専門性が活かせる事業所らしい近所付き合いが望まれる。例えば、福祉のよろず相談の窓口になることは、近隣者の希望に応えることになり、介護方法や制度の有効利用、認知症高齢者の接し方、関係機関の紹介など、専門性を活かした活動で地域に貢献することを期待したい。 |
| 3                 |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価)<br/>認知症に関する相談や施設見学など、地域の方々に向けて情報を発信する事に努めている。</p>  |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)  |
|------|------|---|---|--|
| 4    | 3    | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | (自己評価)<br>運営推進会議を2か月に一回開催して、そこでいただいた評価やご意見をもとに、改善に取り組んでいる。  |  |
|      |      |   | (外部評価)<br>運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、自治会正副会長、市議会議員、市職員等の参加を得て開催している。会議では、事業所の近況や活動状況を報告し、参加者と意見交換をしている。参加者に事業所の理解を深めてもらうと共に、参加者から出された意見を取り入れ、事業所の行事に反映させている。             | 利用者のサービス向上に活かすことも運営推進会議の目的であるので、参加委員からのより活発な意見や提案が出てくるような運営の工夫を期待したい。そのためには、運営推進会議の年間計画を立てて実施することが望まれる。そうすることで、事業所の年間行事と結びつけることができ、参加委員にも事業所の全体像を理解してもらえ、災害時避難訓練と会議を連動させたり、食事を試食するなど、思わぬ意見が聞けると思われる。 |
| 5    | 4    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | (自己評価)<br>市の担当者に運営推進会議に出席してもらい、意見交換を行うことで協力関係を構築している。   |  |
|      |      |   | (外部評価)<br>市担当者は運営推進会議に毎回参加し、事業所の現状を理解してもらおうと共に、助言を得ている。また、管理者は利用者のケアサービス内容についても、市担当者と話し合う機会を持っており、信頼関係を築いている。事業所の運営会社は、他にも高齢者の福祉事業を行っているため、行政とは地域福祉という大きな視点での連携もある。 |  |
| 6    | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価)<br>施設内で研修を実施し、どのような行為が身体拘束に該当するかを職員が理解した上で、たとえば玄関などの出入口を施錠することで行動を制限することがないように、普段から身体拘束に配慮したケアを実践している。   |  |
|      |      |   | (外部評価)<br>法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、事業所でも定期的に勉強会が行われている。玄関は夜間以外は常に開放しており、自由に外出することができる。事務所が玄関先であり、事務職員も協力して利用者の見守りを行っている。利用者が落ち着いて生活できているのは、自由を奪わないことに徹しているからこそだと思える。     |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 7    |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | (自己評価)<br>施設内で研修を実施し、「高齢者虐待防止法」について学習している。また、日々、利用者の身体的・精神的な変化に気付けるように、見守り・観察をしている。  |                               |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | (自己評価)<br>施設内で研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。必要に応じて、利用者や家族に対して、それらの制度について説明し、活用できるように支援している。  |                               |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                       | (自己評価)<br>契約時にサービスや料金の細部にわたり説明し、利用者とその家族の理解を得た後に契約を交わしている。また、利用開始後においても、利用者や家族からの意見を聞き、提供するケアについての理解と同意を得られるように説明に努めている。   |                               |
| 10   | 6    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                    | (自己評価)<br>利用者や家族からの意見に耳を傾けるだけでなく、施設の入口に御意見箱やノートを設置することで施設に意見を述べやすい体制を整えている。寄せられた意見については、職員の間で共有し、運営に反映できるように改善に努めている。  |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>管理者は、自分の親の介護体験から、家族に情報をその都度知らせることが重要であると考え、「離床時に腰痛の訴えが時々ありますが、湿布を貼って様子を見ている段階です。」などと、利用者の日々の体調変化を日常生活報告書に書いて知らせている。そうすることで、家族等は意見や要望を具体的に表すことができ、家族等との信頼関係を密にする上で重要な取組みになっている。また、電話で連絡する際には、家族等の気持ちに配慮しながら行うよう努めている。 |                               |

| 自己評価                        | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 11                          | 7    | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | <p>(自己評価)<br/>代表者や管理者が普段から職員の意見に耳を傾けるだけでなく、合同ユニット会では、職員と互いに意見を交換したり提案を聞いたりする時間を設け、施設の運営に反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価)<br/>月1回ユニット会があり、職員は意見や提案を出すことができる。また、管理者は絶えず両ユニットに気を配り、適宜利用者の元に出向いている。利用者一人ひとりの状態を把握するためであるが、職員と一対一で話す機会としても活用しており、職員の率直な意見が聞ける介護の現場となっている。管理者は日常的に職員の意見を聞くよう努めている。</p> |                               |
| 12                          |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | <p>(自己評価)<br/>適宜、代表者は、職場において管理者や職員と意見交換を行い、給与水準や労働時間、処遇について把握し、すべての職員が向上心を持って働くことができるように、職場環境や条件について整備に努めている。</p>  |                               |
| 13                          |      | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | <p>(自己評価)<br/>毎月施設内で研修を実施したり、施設外で開催される研修会に参加を促したりすることにより、職員一人ひとりの力量の向上に努めている。</p>  |                               |
| 14                          |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | <p>(自己評価)<br/>施設外で開催される研修会に参加することにより、同業者と交流する機会を作ることを進めている。</p>  |                               |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |  |                               |
| 15                          |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | <p>(自己評価)<br/>利用開始前の面談や、入居時に利用者の意見を丁寧に聞き取り、毎日安心して暮らしていけるような支援を提供できるように、信頼関係の構築に努めている。</p>  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|------|------|--|--|---|
| 16   |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | (自己評価)<br>利用者と家族の意見や要望などに耳を傾け、その気持ちを受けとめた上で、サービスなどについて説明し、信頼関係を築けるように努めている。  |   |
| 17   |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価)<br>利用者や家族との面談や日常的な会話から、必要としている支援を見極め、適切なサービスが利用できるように配慮している。  |   |
| 18   |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | (自己評価)<br>職員は、利用者と食事を共にし、レクリエーションと一緒に参加したり雑談をしたりすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築くように努めている。   |   |
| 19   |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | (自己評価)<br>毎月、利用者の生活状況や健康状態を書面にして家族に伝えることや、家族が気兼ねなく施設を訪問し面会できる環境を整えることにより、利用者と家族との絆を大切に、家族と共に利用者を支える関係を築いている。   |   |
| 20   | 8    | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている                  | (自己評価)<br>入居している利用者の中には、昔からの知り合いもあり、互いに居室を行き来して交流を続けたり、友人や知人が面会に来たり、馴染みの商店で買い物をしたりすることで、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないうに支援している。<br><br>(外部評価)<br>利用者の友人や近隣者が事業所を訪ねて来ると、職員は笑顔で迎え入れ、訪れやすい雰囲気をつくっている。また、事業所の近くに住んでいた利用者は、外出の際に自宅に立ち寄るなどの支援を行い、今までの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。それと同時に、管理者は事業所が利用者の住む場所となるよう支援することが、利用者が落ち着いて生活する上で重要と考え、利用者がその地域に馴染むことができるよう努めたいと思っている。 | まずは、利用者一人ひとりが事業所内の他の利用者や職員と深い繋がりができていくことが重要であり、それが近隣、地域と広がって行くことが期待される。事業所ならではの馴染みの関係構築に取り組んでほしい。 |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|------------------------------------|------|---|---|---|
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | (自己評価)<br>日頃から利用者同士の人間関係を把握した上で、互いに協力したり励まし合ったりできる作業を行っていただくほか、利用者同士が交流しやすいように、座席の配置にも配慮している。   |   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価)<br>医療機関に入院したり施設を退所したりした後も、ご家族からのご相談により再度受け入れを行ったり、他の施設をご案内したりするなど、これまでの関係性を大切にしている。  |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |   |
| 23                                 | 9    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | (自己評価)<br>利用者の言葉や行動から意向を汲み取った場合には、職員全員がその情報を共有できるように専用のノートに記述している。<br><br>(外部評価)<br>職員は、利用者の思いを汲み取るため、話しをよく聞くことに徹している。日々の雑談の中に、利用者の思いが込められていると考え、努めて声をかけるようにしている。また、話のきっかけを作るために、「選んでもらう」支援に力を入れている。「どっちがいい?」「前もこっちだったね」「何で好きになったん?」という声掛けには、利用者の思いを汲み取ろうとしていることが分かる。また、知り得た情報は、「専用ノート」を作って職員間で共有するようにしている。 | せっかく利用者理解のために作っている専用ノートであるが、取り組み期間が短いとはいえ、記載内容が少ない。管理者が、専用ノートを活用して介護計画を充実させたいと考えていることで、職員が記載する際に構えてしまっているように思える。ノートの活用方法をシンプルにして、利用者が話した会話を書き残し、その中で理解を深めて行くことに搾ってはどうか。 |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | (自己評価)<br>他のサービス機関からのサマリーや、ご家族からの聞き取り、利用者との会話により、入居する前の、一人ひとりの生活歴を把握している。   |   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | (自己評価)<br>利用者の行動を観察したりバイタルチェックを行ったりすることにより、利用者がどのように一日を過ごしているか、心身状態はどうかといったことを把握している。   |   |



| 自己<br>評価 | 外部<br>評価 | 項 目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|----------|----------|--|---|---|
| 26       | 10       | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング<br/>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>(自己評価)<br/>毎月1度行っているユニット会において、担当者だけでなく、すべての職員で一人ひとりの利用者の現状について気づいた点を話し合い、家族に連絡して意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)<br/>介護計画について話し合うユニット会は、回数を積み重ねており、闊達な意見交換がなされている。管理者は、職員が自由に意見や提案を述べられるよう、「聞く姿勢」を大切にしている。また毎月送付している日常生活報告書を通して、家族等の意見が出しやすくなっているようで、介護計画には家族等の思いも反映されている。また、管理者はユニット会を職員を育てる場として活用したいと考えており、徐々に担当者に責任を移行している。</p> | <p>事業所の長年の実績から考慮すると、介護計画のモニタリング方法に一層の工夫が期待できる。現在のモニタリングの方法は職員全員で確認しており、主観的判断がモニタリングの物差しになっている。客観性を加味するために、介護計画の目標に対しデータ化できる項目を入れる等が求められる。「した」「できなかった」で評価し、何パーセント達成できたか、できなかった理由はなぜかとモニタリングすると、職員の専門性も向上しよりよい介護計画になると思われる。</p> |
| 27       |          | <p>○個別の記録と実践への反映<br/>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>                        | <p>(自己評価)<br/>利用者別の経過観察記録に記録するとともに、利用者について気づいた事や情報を職員間で共有するための申し送りノートを活用することで、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>  |   |
| 28       |          | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br/>本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>              | <p>(自己評価)<br/>季節を感じる事ができる行事を催したり、利用者の誕生日にはあらかじめご家族に連絡し誕生日を共に祝っていただいたりするなど、その時々で生まれるニーズに柔軟に対応している。</p>   |   |
| 29       |          | <p>○地域資源との協働<br/>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>                         | <p>(自己評価)<br/>ボランティアの方との関わりや、地域の小学校の児童との交流、地元の商店での買い物、散歩、ドライブなどにより、楽しみながら生活が出来ている。</p>  |   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 30   | 11   | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | (自己評価)<br>利用者本人や家族の希望に応じたかかりつけ医を受診する際には送迎の支援を行ったり、施設の担当医による定期的な往診により適切な医療を受けられるように支援している。  |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>事業所では、利用者がかかりつけ医を受診できるように、病院への送迎を支援しており、車の運転ができない高齢の家族等から好評を得ている。病院内での付き添いは家族等が行うが、利用者の介護を家族等と協力して行うという事業所の考えである。車の運転は管理者が担っており、病院との専門的な情報交換もスムーズに行っている。また、車の中での家族等との会話はコミュニケーションを深める機会にもなっている。          |                               |
| 31   |      | ○看護職との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                        | (自己評価)<br>毎週火曜日・木曜日・土曜日には訪問看護師に、利用者一人ひとりの心身状況等を報告したり相談したりすることで、適切な受診や看護を受けられるように支援している。  |                               |
| 32   |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価)<br>治療方針や早期退院について、利用者と家族と話し合いの場を設け、医師をはじめとする病院の関係者との情報交換や相談を行っている。   |                               |
| 33   | 12   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | (自己評価)<br>家族会において、終末期には看取りを含めた対応を説明している。また、すべての職員が同じ対応が取れるように、対応方針を統一しているだけでなく、訪問看護や主治医との連携体制も構築出来ている。   |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>事業所では、訪問看護ステーションと密な連携を持ち、利用者の終末期ケアに取り組んでいる。管理者は老人保健施設の施設長の経験者で、職員の中にも施設経験者が数名いるため、ターミナルケアにおける事業所と訪問看護ステーションの行うべき役割を熟知している。単独の事業所であるため、できる事とできない事を区分して家族等に理解を求めている。これからの福祉事業所がターミナルケアを担う際の一つのスタイルであると言える。 |                               |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価)<br>急変時や事故発生時は、訪問看護師および担当医に報告し、必要な時には救急搬送することを、分かりやすい図にして、掲示している。   |                               |
| 35                               | 13   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価)<br>定期的な避難訓練や初期対応を訓練しており、利用者が避難できる方法をすべての職員が身に付けている。また、地域の消防署から直接、消火訓練の指導を受けるなど、地域との協力体制を築いている。<br><br>(外部評価)<br>事業所は平屋の建物で敷地が広いので、災害時には有利な立地条件である。しかし管理者は、利用者の避難スピードを訓練で体験する度に、火災を出さないことが肝心であり、「火災は職員の注意で出さないようにできる」と実感している。避難訓練が災害時のためだけではなく、日常に役立っている取組みである。また古い住宅団地であるため、自然災害等の場合は事業所より近隣の住宅の方が被害を受けることが想定される。そのため、地域の防災拠点になるよう、話し合いを進めている。 |                               |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |                               |
| 36                               | 14   | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている         | (自己評価)<br>利用者の居室に無断で入室しないことや、個々のプライバシーに関する話は他者に聞こえない場所で行うなど、一人ひとりのプライバシーの確保に努めている。<br><br>(外部評価)<br>職員は利用者を人生の先輩として敬い、認知症が進行しても、利用者の誇りやプライドを大切にしよう心掛けている。ゆったりとした時間が流れていると感じるリビングの雰囲気は、利用者に安心感があることの証のように思える。男性職員がちょっと強めに喋っているのは、利用者の息子を演じているためで、「ハイ、ハイ」と微笑みながら言葉を返している利用者の姿を見るとそれが納得できる。管理者は、利用者の立場に立って考え、対応するよう指導している。                               |                               |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている           | (自己評価)<br>話しやすい雰囲気作りに努め、押し付けない支援を心掛けてケアを実践している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 38   |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価)<br>生活リハビリをしていただく中で、本人の意思や希望を確認し、お手伝いをしてもらっている。  |                               |
| 39   |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | (自己評価)<br>職員が、利用者の好みを尊重しながら、季節に適した衣類を選択する手伝いをしている。   |                               |
| 40   | 15   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | (自己評価)<br>食材の下ごしらえなど、利用者と職員が一緒になって、食事の準備や片付けをしている。<br><br>(外部評価)<br>事業所に隣接する福祉事業を始める計画があり、それを機に調理を一元化させる構想もあるが、現在はユニット毎に職員が調理をしている。職員に主婦層が多いので、家庭の温かみが感じられ利用者の楽しみの一つになっている。食後、下膳をしている利用者が、台所で職員にお盆を渡ししながら、「ご馳走さん、美味しかった。」と声を掛けていた。調理をした職員にとって、何よりの言葉である。 |                               |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | (自己評価)<br>食事の摂取量が少ない方には、代替食を提供したり、水分不足にならないように声かけし飲んでいただいたりしている。   |                               |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | (自己評価)<br>毎食後、一人ひとりの利用者に声かけして口腔ケアを促したり、お一人で口腔ケアが困難な方には職員が介助したりしている。また、訪問歯科診療を利用する利用している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43   | 16   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている          | (自己評価)<br>排泄記録を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間をみてトイレ誘導を行うようにしている。   |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。夜間は、利用者の状態を見極め、他に優先すべきことがないか配慮しながら、睡眠を優先して介助方法を変えるなど、臨機応変に対応している。事業所にはユニットに3か所トイレがあり、どのトイレも車いすが入る広さを確保している。  |                               |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>一人ひとりの排便の有無を毎日確認し記録している。また、食事に食物繊維の多いものを取り入れたり、一日の水分量を記録したり、運動を行うことを促したりすることで便秘の予防に努めており、便秘気味の利用者には緩下剤を利用して対応している。  |                               |
| 45   | 17   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価)<br>利用者が希望する時間帯を尊重し、希望する時間が重複する場合には、職員と利用者とは話し合い、入浴時間の調整を行っている。また、入浴する時間は一方的に職員が決めずに、利用者が楽しんで入浴できる気持ちに配慮して、入浴の介助を行っている。   |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>管理者は、入浴とは湯船に入ることであり、利用者がリラックスできる時間であるということに拘っている。また、「職員がしんどい介護は、利用者もしんどい。」と、二人体制で介助するようにしている。「力のある職員は一人で大丈夫と言うけど、利用者が心配で。」とあくまでも利用者本位に考えてケアを行っている。シャワーチェアやグリップ型手すり等、福祉用具も積極的に活用し、安全に楽しみながら入浴ができるよう支援している。 |                               |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | (自己評価)<br>利用者が休みたいときには、自由に休息していただいている。また、居室や共用のリビングは毎日職員や利用者が清掃し、寝具は定期的に洗濯したり干したりすることで、気持ちよく眠ることができる支援をしている。  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | (自己評価)<br>一人ひとりごとのお薬手帳や薬の説明書にある効能や注意事項を確認して、用法や用量について職員が理解を深めるように配慮している。体調や病状が変化した際には、訪問看護師に相談の上、医師の指示を仰ぎ対応している。  |                               |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | (自己評価)<br>フェイスシートなど、利用者の生活歴を把握した上で、料理などの家事をお手伝いいただき役割を実感していただいたり、普段の会話などで本人の興味や関心があることを話題にしたりして気分転換などの支援に努めている。   |                               |
| 49   | 18   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価)<br>お天気のよい日には、利用者がホームの周囲に整備した花壇を見て回ったり、時々季節を感じていただけるように自動車を利用してお花見や紅葉狩りなどに出かけている。<br>(外部評価)<br>毎月、桜や菖蒲、紫陽花などの季節の花を見物するため、ドライブに出かけている。また、天気の良い日は、近所を散歩したり、利用者の希望に応じて買い物に出かけるなどしている。遠出が難しい利用者も庭に出て外気浴をする等、戸外に出る回数を増やすよう支援している。住宅地の一番奥まっている場所に立地しているため安全に散歩ができ、管理者が「お帰り」と帰宅した利用者に声を掛けていた光景が見られた。 |                               |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | (自己評価)<br>利用者本人が管理できる範囲で金銭を所持して頂いており、それを超える金銭については、事務所で預かり、買い物をした際には、買い物手帳に金銭の出納を記録し、管理している。  |                               |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | (自己評価)<br>家族に連絡を取りたいときには、施設に備えてある固定電話を利用していただいたり、携帯電話を所持して自由に連絡していただいている。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52   | 19   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>共用の空間は、1日1回は必ず清掃をしており、衛生と清潔を保っている。室温や湿度を適宜確認し、居心地よく過ごせるように、換気や、温度や湿度の調節を行っている。  |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>広いリビングダイニングは中庭に面しており、カーテンを開けばなしにしてもプライバシーが守られる構造になっている。襖で区切られた小上がりの和室が続いており、襖を取れば舞台にも活用でき、多様性のある共用スペースである。また、共用スペースの片側に利用者の居室が並んであり、職員が見守りをしやすい構造でもある。リビングから延びている広い廊下の両サイドにも大きな窓があり、風通しの良い空間になっている。 |                               |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | (自己評価)<br>共用のリビングにはどなたでも利用できるソファを配置したり、気のあった他の利用者と自由に交流ができるように思い思いに、共用のスペースを利用させていただいている。   |                               |
| 54   | 20   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | (自己評価)<br>使い慣れた持物を入居後も使用していただいたり、思い出のアルバムや記念の品物を居室に並べていただいたりすることで、入居後も居心地よく過ごせるように配慮している。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>各居室には造り付のクローゼットと飾棚があり、どの部屋もすっきりしている。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、自由に配置して個性的な部屋になっている。居室に桐タンスを置いている利用者は、「大したものじゃないんです。」と言いながらも居心地良く過ごしている様子を話していた。各居室は、利用者の身体機能に合わせてベッドの配置が異なっており、居心地と機能性に配慮されている。               |                               |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | (自己評価)<br>居室内で植物を育てたり、好きな時間にテレビを見たり、本を読んだりして自立した生活ができるように、各々の居室を自由に利用させていただいている。  |                               |

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |
|---------|-------------------|
| 事業所番号   | 3890500246        |
| 法人名     | 有限会社 ほほえみ         |
| 事業所名    | グループホーム微笑の家なかむら   |
| 所在地     | 愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号 |
| 自己評価作成日 | 平成27年5月20日        |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |
|-------|-------------------|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |  |
| 所在地   | 松山市持田町三丁目8番15号    |  |
| 訪問調査日 | 平成27年6月24日        |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の生活スタイルを尊重して、その人らしさが発揮できるように、プランを立てて、散歩や外出をする事で精神面の安定も図れており、皆様穏やかに過ごすことができている。利用者の生活歴を大切に、職員と一緒に食事の支度などを行うことにより、不安な行動もなく穏やかな生活が送れている。本人の希望で自宅の様子を見に帰ったり、家族の絆を深めるために、墓参りや家の行事ごとに参加できるように積極的に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

担当者は、利用者のスナップ写真入りの「日常生活報告書」を書いて、毎月家族等に送っている。管理者が独自に考えたもので、利用者の健康状態や生活状況を知らせる内容である。特筆すべきは、良い事だけでなく心配な事柄も家族等と共有し、一緒に利用者支援していることである。管理者は、「家族は事業所から電話が掛ると、何もなくてもドキッとします。私もそうでした。」と述べ、自らの体験を踏まえた取り組みである。定期的に送付されているので、家族等が面会に訪れると、職員と積極的に話し合うことができている。また、管理者は、「介護者がしんどいことは、利用者もしんどい。」と、力任せの介護は利用者にとっても好ましくないと考え、職員の負担軽減にも心を砕いている。また、訪問看護や協力医の定期的な訪問があり、緊急時体制も整えられているため、安心して医療にかかることができている。家族等の要望に応じて、看取りにも丁寧に対応し

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                       | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |    |   |                       |   |



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家なかむら

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 田坂 慶子

評価完了日 平成 27 年 5 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

| 自己評価              | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)  |
|-------------------|------|--|---|--|
| <b>I.理念に基づく運営</b> |      |  |   |  |
| 1                 | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | <p>(自己評価)<br/>事業所内各所に掲示している理念を心掛け、その人らしさを大切にして温もりある支援・介護に努めている。</p> <p>(外部評価)<br/>代表者と共に考え作成した理念の「その人らしさを大切にする」には、人権に対する配慮が、「温もりのある支援と介護」には、幸福追求の意味がこめられている。管理者は、これを堅苦しく捉えず、さり気ない気配りにその人を思う気持ちを込めて実践につなげようとしている。その姿勢には、「理念の下で」ではなく「理念と共に」働くという信念を感じることができる。職員も管理者から刺激を受けながら、日々理念を念頭において実践に努めている。</p>                                    |  |
| 2                 | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | <p>(自己評価)<br/>地区内の商店で買い物したり、その行き帰りに地域の方とあいさつを交わしふれあい、地区の小学校とも交流をはかっている。地方祭には多くの太鼓台の訪問もあり利用者が地域とのつながりを感じ喜んでいる。</p> <p>(外部評価)<br/>事業所は閑静な住宅街にあり、やや大きめの建物だが平屋であることで街並みに溶け込んでいる。開設以来、地域のお祭りや催し物に積極的に参加し、住民との交流は回数を重ねている。小学校の通学路が近くにあり、利用者は小学生と出会うと声を掛けている。事業所は、近隣の防災拠点として活用するという意向を表明し、地域に頼られる施設となっている。地域に貢献したいという事業所の考えが徐々に住民に認められている。</p> | 開設から5年目に入っているので、地域との関係は、「交流」から「付き合い」に深めていくことが望まれる。ただ、事業所はあくまでも福祉施設であり住宅ではない。したがって専門性が活かせる事業所らしい近所付き合いが望まれる。例えば、福祉のよろず相談の窓口になることは、近隣者の希望に応えることになり、介護方法や制度の有効利用、認知症高齢者の接し方、関係機関の紹介など、専門性を活かした活動で地域に貢献することを期待したい。 |
| 3                 |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価)<br/>認知症に関する相談や施設見学に気軽に応じており、地域の方々に向けて発信することに努めている。</p>  |  |

|   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|--|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | (自己評価)<br>2ヶ月に1回開催し、そこでの評価や意見は社内での会議にて随時報告され、それを基にサービス向上のための改善に努めている。   | 利用者のサービス向上に活かすことも運営推進会議の目的であるので、参加委員からのより活発な意見や提案が出てくるような運営の工夫を期待したい。そのためには、運営推進会議の年間計画を立てて実施することが望まれる。そうすることで、事業所の年間行事と結びつけることができ、参加委員にも事業所の全体像を理解してもらえ、災害時避難訓練と会議を連動させたり、食事を試食するなど、思わぬ意見が聞けると思われる。 |
|   |   |   | (外部評価)<br>運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、自治会正副会長、市議会議員、市職員等の参加を得て開催している。会議では、事業所の近況や活動状況を報告し、参加者と意見交換をしている。参加者に事業所の理解を深めてもらうと共に、参加者から出された意見を取り入れ、事業所の行事に反映させている。             |  |
| 5 | 4 | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | (自己評価)<br>新居浜市の担当者と連絡を取り合っの情報交換や運営推進会議へ出席してもらっての意見交換を行うことで協力関係を構築している。  | 市担当者は運営推進会議に毎回参加し、事業所の現状を理解してもらおうと共に、助言を得ている。また、管理者は利用者のケアサービス内容についても、市担当者と話し合う機会を持っており、信頼関係を築いている。事業所の運営会社は、他にも高齢者の福祉事業を行っているため、行政とは地域福祉という大きな視点での連携もある。  |
|   |   |   | (外部評価)<br>市担当者は運営推進会議に毎回参加し、事業所の現状を理解してもらおうと共に、助言を得ている。また、管理者は利用者のケアサービス内容についても、市担当者と話し合う機会を持っており、信頼関係を築いている。事業所の運営会社は、他にも高齢者の福祉事業を行っているため、行政とは地域福祉という大きな視点での連携もある。 |  |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価)<br>勉強会の実施により身体拘束への理解を深め、玄関や出入り口を施錠せず、行動を制限することなく必要ならばスタッフの動向や頻回の巡回・見守りにて対応している。  | 法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、事業所でも定期的に勉強会が行われている。玄関は夜間以外は常に開放しており、自由に外出することができる。事務所が玄関先であり、事務職員も協力して利用者の見守りを行っている。利用者が落ち着いて生活できているのは、自由を奪わないことに徹しているからこそだと思える。  |
|   |   |   | (外部評価)<br>法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、事業所でも定期的に勉強会が行われている。玄関は夜間以外は常に開放しており、自由に外出することができる。事務所が玄関先であり、事務職員も協力して利用者の見守りを行っている。利用者が落ち着いて生活できているのは、自由を奪わないことに徹しているからこそだと思える。     |  |

|    |   |   |  |  |
|----|---|---|--|--|
| 7  |   | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | (自己評価)<br>研修参加者からのフィードバックや合同ユニット会における勉強会などで虐待防止への理解を深め、状況報告や意見交換することにより防止に努めている。   |  |
| 8  |   | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価)<br>合同ユニット会での勉強会で制度への理解を深め、利用者家族と話し合い、成年後見人制度の利用をすすめ活用し支援に努めている。   |  |
| 9  |   | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | (自己評価)<br>契約時には細部にわたり説明し、理解を得て契約している。利用開始後においても利用者の意見を聞き、利用者家族との連絡・意見交換により理解・納得を得られるように努めている。  |  |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                   | (自己評価)<br>利用者や利用者家族の意見に常に耳を傾け、ご意見箱やノートを作り気軽に意見や要望を伝えられるようにしている。それらについての報告・連絡を密にして情報を共有し運営に反映できるように改善に努めている。  |  |
|    |   |   | (外部評価)<br>管理者は、自分の親の介護体験から、家族に情報をその都度知らせることが重要であると考え、「離床時に腰痛の訴えが時々ありますが、湿布を貼って様子を見ている段階です。」などと、利用者の日々の体調変化を日常生活報告書に書いて知らせている。そうすることで、家族等は意見や要望を具体的に表すことができ、家族等との信頼関係を密にする上で重要な取組みになっている。また、電話で連絡する際には、家族等の気持ちに配慮しながら行うよう努めている。 |  |

|                             |   |  |  |  |
|-----------------------------|---|--|--|--|
| 11                          | 7 | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | (自己評価)<br>常に職員の意見に耳を傾け、合同ユニット会でも意見や提案を聞く時間を設けており運営に反映できるように努めている。  |  |
|                             |   |  | (外部評価)<br>月1回ユニット会があり、職員は意見や提案を出すことができる。また、管理者は絶えず両ユニットに気を配り、適宜利用者の元に向いている。利用者一人ひとりの状態を把握するためであるが、職員と一対一で話す機会としても活用しており、職員の率直な意見が聞ける介護の現場となっている。管理者は日常的に職員の意見を聞くよう努めている。 |  |
| 12                          |   | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | (自己評価)<br>代表者は不定期ではあるが職場をたびたび訪れ職員との意見交換を行い、働きやすい環境・条件の整備につとめている。   |  |
| 13                          |   | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | (自己評価)<br>勉強会の開催や研修の案内と参加を勧め質の向上に努めている。  |  |
| 14                          |   | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価)<br>研修会への参加により同業者と交流する機会を作ることを努めている。   |  |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |   |  |  |  |
| 15                          |   | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | (自己評価)<br>利用開始前の面談や入居時に利用者の意見を丁寧に聞きとり、安心して暮らせるような支援を提供出来るように信頼関係の構築に努めている。   |  |

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | <p>(自己評価)</p> <p>御家族の意見を丁寧に聞き取り、様々なサービスの提供のあり方を説明し信頼関係を築けるように努めている。</p>   |  |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | <p>(自己評価)</p> <p>利用者本人を含む家族との面談時の聞き取りやサマリーの情報などを勘案し医療支援なども含んだサービスができるように努めている。</p>  |  |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | <p>(自己評価)</p> <p>生活リハビリの一環としてお手伝いいただける事は一緒にすることにより感謝の念を以て対応し、助け合う立場であることが感じられるように努めている。</p>   |  |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | <p>(自己評価)</p> <p>御家族に利用者の生活状況や健康状態を随時伝え、不安の解消には本人との面会を依頼したりスタッフと一緒に考え意見交換することにより共に本人を支えていく関係を築いている。</p>   |  |
| 20 | 8<br>○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている            | <p>(自己評価)</p> <p>利用者の中には昔からの知り合い同士もお互いに行き来して馴染みの関係を継続できている。また友人や知人が面会に来られたり、馴染みの商店で買い物したり外出先を馴染みの場所にするにより関係継続の支援ができるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の友人や近隣者が事業所を訪ねて来ると、職員は笑顔で迎え入れ、訪れやすい雰囲気をつくっている。また、事業所の近くに住んでいた利用者は、外出の際に自宅に立ち寄るなどの支援を行い、今までの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。それと同時に、管理者は事業所が利用者の住む場所となるよう支援することが、利用者が落ち着いて生活する上で重要と考え、利用者がその地域に馴染むことができるよう努めたいと思っている。</p> | <p>まずは、利用者一人ひとりが事業所内の他の利用者や職員と深い繋がりができていくことが重要であり、それが近隣、地域と広がって行くことが期待される。事業所ならではの馴染みの関係構築に取り組んでほしい。</p> |

|                                    |   |   |  |   |
|------------------------------------|---|---|--|---|
| 21                                 |   | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | (自己評価)<br>常に利用者の様子を観察し、利用者同士が協力し合えるような作業をしたり、共感できる話題を提供するように努めている。   |   |
| 22                                 |   | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価)<br>入院退去後にも御家族からの相談により再度の受け入れや他の施設への案内、通信のやり取りを続けている。  |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |   |   |  |   |
| 23                                 | 9 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | (自己評価)<br>利用者の言葉を傾聴し汲み取り、報告することで施設内での情報共有を図り希望や意向の把握に努めている。<br><br>(外部評価)<br>職員は、利用者の思いを汲み取るため、話しをよく聞くことに徹している。日々の雑談の中に、利用者の思いが込められていると考え、努めて声をかけるようにしている。また、話のきっかけを作るために、「選んでもらう」支援に力を入れている。「どっちがいい?」「前もこっちだったね」「何で好きになったん?」という声掛けには、利用者の思いを汲み取ろうとしていることが分かる。また、知り得た情報は、「専用ノート」を作って職員間で共有するようにしている。 | せっかく利用者理解のために作っている専用ノートであるが、取り組み期間が短いとはいえ、記載内容が少ない。管理者が、専用ノートを活用して介護計画を充実させたいと考えていることで、職員が記載する際に構えてしまっているように思える。ノートの活用方法をシンプルにして、利用者が話した会話を書き残し、その中で理解を深めて行くことに搾ってはどうか。 |
| 24                                 |   | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | (自己評価)<br>入居前の他のサービス機関からのサマリー等の情報の把握と確認に努め、家族からの聞き取りをあわせて馴染めるようにしている。  |   |
| 25                                 |   | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | (自己評価)<br>利用者の様子観察に努め、経過を記録・報告し現状の把握に努めている。  |   |

|    |    |  |   |  |
|----|----|--|---|--|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価)<br>定例のユニット会において利用者の生活の様子や健康状態について話し合い、家族に連絡して意向を聞き訪問看護やドクターとも連携して介護計画を作成している。  |  |
|    |    |  | (外部評価)<br>介護計画について話し合うユニット会は、回数を積み重ねており、闊達な意見交換がなされている。管理者は、職員が自由に意見や提案を述べられるよう、「聞く姿勢」を大切にしている。また毎月送付している日常生活報告書を通して、家族等の意見が出しやすくなっているようで、介護計画には家族等の思いも反映されている。また、管理者はユニット会を職員を育てる場として活用したいと考えており、徐々に担当者に責任を移行している。 | 事業所の長年の実績から考慮すると、介護計画のモニタリング方法に一層の工夫が期待できる。現在のモニタリングの方法は職員全員で確認しており、主観的判断がモニタリングの物差しになっている。客観性を加味するために、介護計画の目標に対しデータ化できる項目を入れる等が求められる。「した」「できなかった」で評価し、何パーセント達成できたか、できなかった理由はなぜかとモニタリングすると、職員の専門性も向上しよりよい介護計画になると思われる。 |
| 27 |    | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | (自己評価)<br>利用者別の経過観察記録に記録するとともに、申し送りノートの活用やユニット会での意見交換などで情報の共有に努め実践や介護計画の見直しに活かしている。   |  |
| 28 |    | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | (自己評価)<br>スタッフによる山菜や花など旬の物の提供や、アイデアを出し合っの手作り品などで喜んでいただいている。   |  |
| 29 |    | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | (自己評価)<br>ボランティアによる訪問や児童との触れ合い、買い物支援や医療支援、散歩やドライブでの外出などで楽しみながら生活出来ている。  |  |



|    |    |   |  |  |
|----|----|---|--|--|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | (自己評価)<br>利用者の昔からのかかりつけ医への受診の送迎支援や施設としての主治医による定期往診、緊急時には24時間対応の主治医の往診又は受診による適切な医療体制を築いている。   |  |
|    |    |   | (外部評価)<br>事業所では、利用者がかかりつけ医を受診できるように、病院への送迎を支援しており、車の運転ができない高齢の家族等から好評を得ている。病院内での付き添いは家族等が行うが、利用者の介護を家族等と協力して行うという事業所の考えである。車の運転は管理者が担っており、病院との専門的な情報交換もスムーズに行っている。また、車の中での家族等との会話はコミュニケーションを深める機会にもなっている。          |  |
| 31 |    | ○看護職との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                        | (自己評価)<br>毎週火曜・木曜・土曜の訪問看護と緊急時の24時間対応により医療支援をおこなっている。   |  |
| 32 |    | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価)<br>治療方針や早期退院について家族と話し合いの場を設け主治医からの説明を仰いだり、相談を重ねながら関係作りを築いている。   |  |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | (自己評価)<br>家族会において終末期には看取りを含めた対応を説明しており、職員間において対応方針を統一、共有するとともに訪問看護や主治医との連携体制が構築出来ている。  |  |
|    |    |   | (外部評価)<br>事業所では、訪問看護ステーションと密な連携を持ち、利用者の終末期ケアに取り組んでいる。管理者は老人保健施設の施設長の経験者で、職員の中にも施設経験者が数名いるため、ターミナルケアにおける事業所と訪問看護ステーションの行うべき役割を熟知している。単独の事業所であるため、できる事とできない事を区分して家族等に理解を求めている。これからの福祉事業所がターミナルケアを担う際の一つのスタイルであると言える。 |  |

|   |    |  |  |  |
|---|----|--|--|--|
| 34                                      |    | <p>○急変や事故発生時の備え<br/>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>(自己評価)<br/>緊急時の連絡体制を図案化してわかりやすく掲示している。</p>  |  |
| 35                                      | 13 | <p>○災害対策<br/>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>(自己評価)<br/>定期的な避難訓練や初期対応を訓練している。当施設が地域の避難場所に指定されている。</p> <p>(外部評価)<br/>事業所は平屋の建物で敷地が広いので、災害時には有利な立地条件である。しかし管理者は、利用者の避難スピードを訓練で体験する度に、火災を出さないことが肝心であり、「火災は職員の注意で出さないようにできる」と実感している。避難訓練が災害時のためだけではなく、日常に役立っている取組みである。また古い住宅団地であるため、自然災害等の場合は事業所より近隣の住宅の方が被害を受けることが想定される。そのため、地域の防災拠点になるよう、話し合いを進めている。</p> |  |
| <p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> |    |  |  |  |
| 36                                      | 14 | <p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br/>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>         | <p>(自己評価)<br/>利用者の居室に入る際には無断で入らず、個々の話は他者に聞こえないように配慮している。</p> <p>(外部評価)<br/>職員は利用者を人生の先輩として敬い、認知症が進行しても、利用者の誇りやプライドを大切にしよう心掛けている。ゆったりとした時間が流れていると感じるリビングの雰囲気は、利用者に安心感があることの証のように思える。男性職員がちょっと強めに喋っているのは、利用者の息子を演じているためで、「ハイ、ハイ」と微笑みながら言葉を返している利用者の姿を見るとそれが納得できる。管理者は、利用者の立場に立って考え、対応するよう指導している。</p>           |  |
| 37                                      |    | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br/>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>           | <p>(自己評価)<br/>話しやすい雰囲気作りに努め、押し付けない支援を心がけている。</p>   |  |

|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
| 38 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、<br>一人ひとりのペースを大切にし、その日をどの<br>ように過ごしたいか、希望にそって支援してい<br>る | (自己評価)<br>利用者同士の関係性を大切にし、個々の生活スタイルを<br>尊重している。   |  |
| 39 | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ<br>うに支援している   | (自己評価)<br>馴染みの美容院への送迎、美容関連商品の購入支援を<br>行っている。   |  |
| 40 | 15<br>○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの<br>好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒<br>に準備や食事、片付けをしている    | (自己評価)<br>キッチンスペースをオープンにして準備や片付けを一<br>緒にしている。  |  |
|    |   | (外部評価)<br>事業所に隣接する福祉事業を始める計画があり、それを<br>機に調理を一元化させる構想もあるが、現在はユニット<br>毎に職員が調理をしている。職員に主婦層が多いので、<br>家庭の温かみを感じられ利用者の楽しみの一つになっ<br>ている。食後、下膳をしている利用者が、台所で職員にお<br>盆を渡しなが、「ご馳走さん、美味しかった。」と声<br>を掛けていた。調理をした職員にとって、何よりの言葉<br>である。 |  |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ<br>て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習<br>慣に応じた支援をしている               | (自己評価)<br>食事や水分の摂取量をチェックして健康管理に努め、刻<br>み食やミキサー食の対応、トロミ材やエンシュアリキッ<br>ドなど取り入れて健康状態に対応している。   |  |
| 42 | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、<br>一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔<br>ケアをしている                        | (自己評価)<br>食後の歯磨きの声掛けを励行し、義歯洗浄支援や訪問歯<br>科診療の利用をしている。  |  |

|    |    |   |   |  |
|----|----|---|---|--|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている          | (自己評価)<br>排泄記録から排泄パターンを把握して声掛けや誘導をしている。   |  |
|    |    |   | (外部評価)<br>一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。夜間は、利用者の状態を見極め、他に優先すべきことがないか配慮しながら、睡眠を優先して介助方法を変えるなど、臨機応変に対応している。事業所にはユニットに3か所トイレがあり、どのトイレも車いすが入れる広さを確保している。   |  |
| 44 |    | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>食事に食物繊維の多いものを取り入れ、乳製品の摂取や散歩などでの運動を促している。便秘気味の利用者については緩下剤などで排便コントロールをしている。   |  |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価)<br>利用者の関係性や希望を聞き入れて入浴日や時間帯を決め、個々のペースで入浴支援している。   |  |
|    |    |   | (外部評価)<br>管理者は、入浴とは湯船に入ることであり、利用者がリラックスできる時間であるということに拘っている。また、「職員がしんどい介護は、利用者もしんどい。」と、二人体制で介助するようにしている。「力のある職員は一人で大丈夫と言うけど、利用者が心配で。」とあくまでも利用者本位に考えてケアを行っている。シャワーチェアやグリップ型手すり等、福祉用具も積極的に活用し、安全に楽しみながら入浴ができるよう支援している。 |  |
| 46 |    | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | (自己評価)<br>リビングの畳敷きスペースやソファで休んでもらったり個々の就寝スタイルに合わせて支援している。  |  |

|    |    |  |  |  |
|----|----|--|--|--|
| 47 |    | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | (自己評価)<br>お薬手帳や薬の説明書を個々に管理して確認に努め、服薬表をもとに投薬管理をしている。症状の変化については訪問看護師に相談の上医師に指示を仰ぎ対応している。   |  |
| 48 |    | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | (自己評価)<br>フェイスシートやセンター方式のシートの活用、行事の実施などで支援している。  |  |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価)<br>希望時には職員や家族が同行して見守り、地域の人々の見守りの下散歩や買い物の支援をしている。  |  |
|    |    |  | (外部評価)<br>毎月、桜や菖蒲、紫陽花などの季節の花を見物するため、ドライブに出かけている。また、天気の良い日は、近所を散歩したり、利用者の希望に応じて買い物に出かけるなどしている。遠出が難しい利用者も庭に出て外気浴をする等、戸外に出る回数を増やすよう支援している。住宅地の一番奥まっている場所に立地しているため安全に散歩ができ、管理者が「お帰り」と帰宅した利用者に声を掛けていた光景が見られた。 |  |
| 50 |    | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | (自己評価)<br>本人が管理できる範囲の金銭は所持してもらっており、高額な金銭については事務所で預かり買い物手帳などで管理し、希望時には買い物支援している。  |  |
| 51 |    | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | (自己評価)<br>希望時には施設の固定電話を利用してもらったり、携帯電話を所持してもらったりしている。   |  |

|    |    |  |   |  |
|----|----|--|---|--|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>毎日の清掃や整理整頓を利用者とともにを行い、花を活け、掲示板に毎月の生活写真を掲示したり、季節の展示物を置くことで居心地良い作りに努めている。   |  |
|    |    |  | (外部評価)<br>広いリビングダイニングは中庭に面しており、カーテンを開けばなしにしてもプライバシーが守られる構造になっている。襖で区切られた小上がりの和室が続いており、襖を取れば舞台にも活用でき、多様性のある共用スペースである。また、共用スペースの片側に利用者の居室が並んであり、職員が見守りをしやすい構造でもある。リビングから延びている広い廊下の両サイドにも大きな窓があり、風通しの良い空間になっている。 |  |
| 53 |    | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | (自己評価)<br>リビングにソファや畳敷きを配置して思い思いに過ごせるようにしている。  |  |
|    |    |  |   |  |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | (自己評価)<br>入居時には出来るだけ希望を聞き入れて荷物を受け入れ、居心地の良い居室を心がけている。  |  |
|    |    |  | (外部評価)<br>各居室には造り付のクローゼットと飾棚があり、どの部屋もすっきりしている。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、自由に配置して個性的な部屋になっている。居室に桐タンスを置いている利用者は、「大したものじゃないんです。」と言いつつも居心地良く過ごしている様子を話していた。各居室は、利用者の身体機能に合わせてベッドの配置が異なっており、居心地と機能性に配慮されている。                |  |
| 55 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | (自己評価)<br>見やすい場所に各部屋の表札や目印の小物を掲示したり、必要な場合は注意書きや施錠することで安全に配慮している。  |  |
|    |    |  |   |  |